

# 関西に住んで

Jネット副会長  
堺市

尾崎宗秀（新井出身）

東京より関西は遠い。その関西に、海外と東京の勤務十五年を除けばもう四十年になる。「まいどおっ、きに」は平気で言える。

大阪の地を踏んだ当初は、同郷の友と「俺おまん」の会話が弾むと、呑屋のオツチャンが「お客さん達どちらの方で」と。気安い大阪では田舎弁丸出しでも構わなかったが、到頭半人前の大阪弁になってしまった。大阪は住み易いし格好つけんでもよい。第一食べ物安くて旨い。それだけではない。今をときめく収益ナンバーワンの企業も関西出身が多い。儲かる種を生み出す自由進取の気風があるからだ。

所で私は戦前からの阪神タイガースファン。でも時代の波でどうなるかわらんが、巨人は勿論中日（太田前会長はフア



ンか）には負けるわけにはいかない。東京の内藤實さんに勧められてつい筆を消らせましたが、皆様と共に今年も元気で過したいと念じています。



# 関西ふるさとこの会に 参加して

杉並区 内藤 實（本町六丁目出身）

昨年暮れ、梅田の雑踏を抜けて、弥生会館に上越出身の約三十名が集まりました。

私は、運営委員のひとりとして、東京より藤沢理事と参加させてもらいました。市役所からは野澤さんと栗本さんが遠路お越しになり、太田前会長も名古屋からお見えでした。

郷土より用意された岩の原ワイン・牧区のとぶろく・雪中梅で乾杯して、自己紹介や関西の生活談義に花が咲きました。ご多分に漏れず、還暦を過ぎた方々ばかりです。

オバチャン達が三分の一おられ、流暢な関西弁が飛び交い、すぐに皆さんは打解けました。一方、オジ（〜）チャン達の挨拶の中で、郷里を離れて直接に当地に来られたのではなく、東京で修業され、



関西に移られた方も何人かおられるのを知り、上越と関西の繋がりは東京より薄いだけに、苦勞もされた事と察しました。現在は安住の地として生活を謳歌して

おられ、いつでも古都を案内しようと思つてくださるお気持ちに感銘しました。人生二度出来るものなら、私も当地に住んでみたい気になされました。

太田前会長は小学校時代の女子同級生や、心斎橋で活躍されている郷土出身のママさんがおられたので、満悦でした。どこへ行つても前会長はモテマス。

再会を誓つて解散しましたが、更に喫茶で談笑して酔を覚ましつづ、上越にお帰りの市役所のお二人を玄関で見送り別れを惜しましました。

東京や名古屋にない歴史と庶民の味を感じた一日でした。

